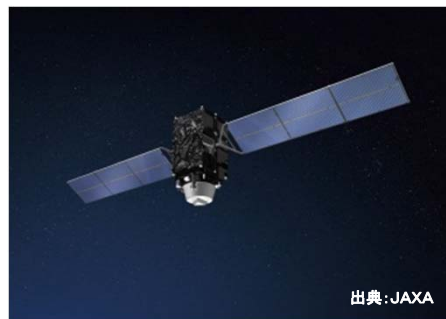
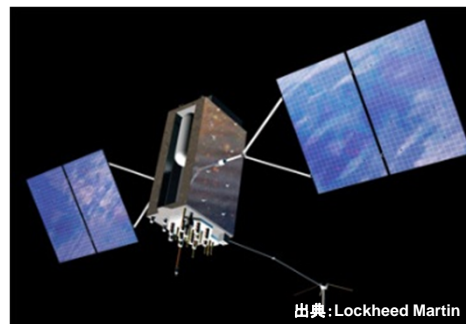


衛星分野の国際動向と日本の位置付け ～測位衛星分野～

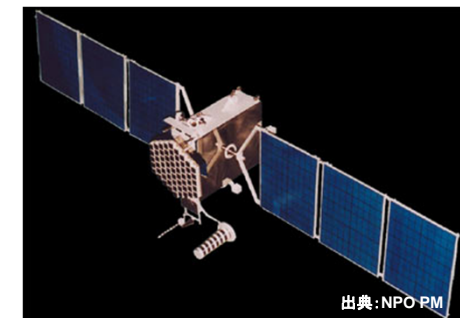
- 我が国は民生用として世界最大規模のGPS利用国。
- GPSの補強・補完を目的とした日本独自の準天頂衛星システムを開発し、初号機「みちびき」を2010年9月に打上げ。
- 「**实用準天頂衛星システム事業の推進の基本的な考え方**」(平成23年9月30日閣議決定)において、2010年代後半を目途にまずは4機体制を整備し、将来的には、持続測位が可能となる7機体制を目指すこととした。



準天頂衛星
(日本)



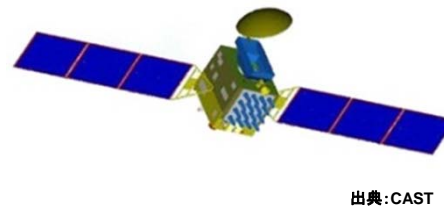
GPS衛星
(米国)



GLONASS衛星
(ロシア)



ガリレオ衛星
(欧州)



北斗衛星
(中国)



IRNSS衛星
(インド)

<国際宇宙ステーション>

- 米国、ロシア、欧州(11カ国)、カナダ、日本が参加する多国間共同プロジェクト。
- 現在、各極で合意されている計画は2015年までであり、米側は2016年から2020年までの計画延長を参加国に対して提案している。
- 我が国は、毎年約400億円を支出。2010年度までに約7100億円を支出。これは我が国において情報収集衛星に次ぐ予算規模の事業。
- これまでに日本実験棟「きぼう」の建設及びHTVによる補給の技術を確立。これにともなって、宇宙飛行士8名が国際宇宙ステーションで実験や補修に従事。実験棟において材料・生命科学、微小重力実験、宇宙医学等の実験を実施。

<探査・科学>

- 宇宙探査分野の日本の競争力は世界第3位。
- ISASによる多くのプロジェクトが世界的に高い評価。
- 探査機の最近の主な成果としては、世界初の小惑星サンプルリターン「はやぶさ」、月探査の「かぐや」が挙げられる。
- 探査機「あかつき」は金星周回軌道への投入に失敗(2010年12月7日)。2015年以降の投入を目指し軌道制御を実施。